

「kokoka避難所宿泊訓練」2014

(公財)京都市国際交流協会事業課主任 岡本 昌也

訓練に至る経緯

地震などの大規模災害発生時には、在住外国人は言葉や文化の壁により情報弱者となる恐れがあります。また、指定避難所である京都市国際交流会館(kokoka)を含め、近隣の学校などの公的施設が被災者用「避難所」となることについても周

知する必要があります。これらの課題に対応するため、また、防災意識の啓発や地域住民との連携の向上を図るため、2009年より各種防災訓練や宿泊を含めた避難所体験訓練を実施しています。本年は、京都での大規模災害の発生を想定し、kokokaを実際に地域の「避難所」として機能させる設定で訓練を実施しました。

実施日時	2014年6月7日(土) 14:00～8日(日) 10:00
実施場所	kokoka ※災害時の地域の指定避難所
参加者	合計148人 外国籍住民49人(内訳:中国33人、台湾5人、ドイツ2人、アメリカ2人、 ニュージーランド・オーストラリア・コロンビア・モンゴル・ バーレーン・ウクライナ・イタリア 以上各1人) 日本人住民35人、行政・消防関係10人、事務局11人、そのほか43人(ボランティアなど)
プログラム	①起震車体験や初期消火、救急救命訓練など、消防関係の訓練の実施 ②「避難所運営協議会」の開催。同協議会において、自主防災会をはじめとする地域住民、区役所職員とともに議論し、運営上の諸問題について協議 ③避難所内に「多言語支援センター」を開設し、近畿圏各地域国際化協会の職員とボランティアが中心となり参加し、上記運営協議会を傍聴の後、行政と当協会が共同で作成中の避難所運営マニュアルを基に避難所巡回などを展開 ④非常食(アルファ化米、乾パンなど)の試食 ⑤東日本大震災の被災者(京都に避難中)の講演会開催および経験談と実体験に基づく助言 ⑥「紙管」を使って避難所内仕切りの組み立て体験 ⑦寝袋で就寝体験(ホール・ロビー・会議室などで) ⑧「ワールド・カフェ」形式による、当訓練についての振り返り、および避難所のあり方についてのディスカッション ⑨防災用品の展示、解説

訓練の特色

①避難所運営協議会の開催

訓練では、実際の災害時と同様に、行政や近隣住民と共に避難所運営協議会を開催しました。

＜協議会で出た意見（外国人関係）＞

- ・ムスリム用お祈り部屋確保、食材表示の必要性
- ・災害に不慣れな外国人への情報伝達、デマへの警戒

②「多言語支援センター」の避難所内設営

従来の訓練では、センターは避難所・運営協議会から独立して設置し、そこから被災した市内各所を訪問することとしていましたが、今回は避難所内に設置し、運営協議会と合同で運営しました。



「紙管」を使った簡易間仕切りの設置

訓練を通じて見えたこと

●「多言語支援センター」避難所内設営について

センターと避難所運営協議会の担当者がお互いの協議内容を聞くことができるため、円滑にコミュニケーションを取ることができたという良い点もありましたが、協議会との区切りがつけられず、センターとして協議する時間が短くなってしまったという点もありました。

●参加者募集について（外国人）

5月に実施した「留学生新入生歓迎会」でのPR、またメーリングリスト「災害メール」への登録者や、協会で把握している留学生のメールアドレスに繰り返し広報することで、50人の定員に対し80人の申込者を得ることができました。しかし当日は、不参加者が31人に及び、参加外国人は49人となりました。当日に、何らかの都合により

参加できない申込者がいることを想定する必要性を感じました。

●避難所の運営について

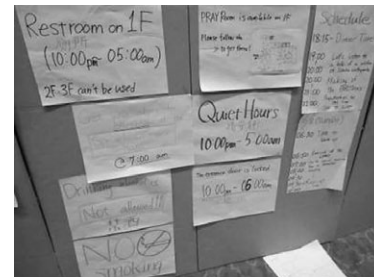
避難所の運営に関して、以下のような気づき・反省点がありました。

- ・各参加者に役割を与えることで、運営（訓練）に責任感を持ってもらい、真剣味を出すことができた。
- ・配給に関するトラブルは実際の避難所でも起こりやすい。特に非常食の数量、配布方法などについては、ささいな情報の行き違い、伝達不足が大きなトラブルにつながることもあるのでしっかりとした対応が必要。
- ・今回は全ての場面には通訳を配置しなかったが、おおむね問題は無かった。実際の被災を想定すれば、防災関連の用語をやさしい日本語にする工夫や、防災専門用語を教える日本語教室の開催も有意義と思われる。

●参加者からの意見

参加外国人からは「新聞・雑誌・野菜や果物・耳栓の配給、シャワーの設置、もっと広い女性専用部屋を、夜間禁煙がづらい」などの訓練環境に関する意見が集中しました。運営側としては、

「日本の避難所を体験した外国人の視点からの意見」を想定していましたが、正しく意図が伝わらなかった部分があったのかもしれない。



多言語での情報掲示（避難所内）

訓練の総括、今後の展望

今回の訓練では、いくつかの部分において、運営側の意図や目的が参加者に正確に伝わらず、当初想定していた反応が得られなかったことがありました。今後の訓練では事前にしっかりと説明を行い、また、訓練中にもそのつど、適切にコミュニケーションを取ること、運営側と参加者の意図のミスマッチを防ぎ、訓練の成果を高めていきたいと考えています。